Interview

ベルハウスでの月例コンサートが300回に

夫婦でつなぐ音楽の心

音楽家　倉田博継さん・理子（みちこ）さん

東村山市のギャラリーベルハウスで1985年から開かれている、倉田博継・理子夫妻による「ベルハウス・ウィークエンド・コンサート」が7月23日で第300回を迎えた。同じ場所で、同じ人が、しかもご夫妻で。月に1度、26年の長きにわたりサロンコンサートを続けてきたのは稀有なことだろう。

倉田博継さん（63歳）と理子さん（63歳）は共に国立音楽大学で学び、博継さんは同大学院ドイツ歌曲専攻終了。理子さんは声楽科を卒業。74年に結婚以来、東村山市在住である。博継さんは岡山県の出身で、81年まで大学院に勤務。83年イタリアで開催された第1回ドイツリート・コンクールに出場。東村山市の文化祭や福祉の集いなど市の行事にも積極的に参加。福祉施設では音楽療法やボランティア演奏も行なっている。

一方理子さんは群馬県の出身で、都立養護学校、近隣の中学校の講師として勤めるかたわら、4年前から自閉症児の学習指導室「かたかごの会」を始めた。コンサート等ではいつも博継さんと一緒、ソプラノとバリトンの美しい歌声で聴衆を魅了している。東村山の音楽文化の要となっているご夫妻だ。

クラシックを気軽に楽しめる

6月25日土曜夜、299回目のコンサートを聴きにベルハウスに伺った。ベルハウスは久米川駅南口から歩いて3分ほど。ギャラリースペースにグランドピアノを備えた、サロンのような画廊だ。この日は東京フィルハーモニー交響楽団所属のヴィオラ奏者、高橋映子さんをゲストに迎えてのコンサート。夕食も後片付けも済ませて出てこられるような時間にと、毎回、7時半が開演である。

「ラフマニノフはイケメンで、ロマンチックな曲が多いんですよ」曲の前のこんなトークがとても分かりやすくて楽しい。クラシックを聴くという身構えは不要だ。理子さんが銀座で楽譜を見つけてきたからと披露した、「さよならは　いわないで」（中田喜直作曲）は澄みきった声が心に染み入るようだった。倉田さんはカンタータ『我は満ち足れり』より〝まどろみのアリア〟と「城ヶ島の雨」をうたいあげた。身体にズシンと響く美声に聴き惚れる。

倉田さんの穏やかでリラックスしたトークは、この場所がホームグラウンドだからだろう。お客さんだけではなく、倉田さんはじめ演奏者も皆さん楽しそうだ。毎回のように通う高齢のご夫婦は「近くで楽しめる上に、アットホームで聴いていて疲れません」。またある男性は「プログラムをとても易しく解説してくれるのがいいですね」。初めて来たという女性は「こんなに素晴らしいコンサートだとは思わなかった」と感激の様子。三方の壁には「女流四人展」の花や果物の絵が展示され、雰囲気にピッタリ。1日の終わり、しばし心満ち足りたひとときだった。

ベルハウスオーナーとの絆

始めたきっかけはベルハウスが以前喫茶店だった頃、近くに住む倉田さんがお客として来ていた。それ以前に倉田さんは市内の子どもたちに、童謡や唱歌、手遊び歌を教えていたが、子どもたちがあまりに知らないのに驚き、「美しい日本語の童謡や唱歌をなくさないようにしたい」という思いで、ベルハウスオーナーの渕上國治さんに相談を持ちかけた。そのことに同感した渕上さんが会場を提供し、ベルハウスでのコンサートが始まった。300回の中には開催日が暴風雨で、お客が一人も来ない回もあった。ベルハウスが喫茶店をやめ、店を他に貸した時は渕上さんが紹介した近くの店で開いた。が、1年余り後にギャラリーとして再開。この間もずっとコンサートは途切れることなく続いた。これまでにモーツァルト全歌曲、シューベルト三大歌曲集、バッハのカンタータを連続演奏している。

オーナー渕上さん

渕上さんは

「二人とも声が衰えない。素晴らしい歌声です。ご夫婦とも大変謙虚な方で、倉田さんは辛抱強く、何でも受け止めてくれる。理子さんは気さくで気丈でおしゃれな方」と語る。コンサートの時にどんな絵をかけるか、といつも気遣う渕上さん。倉田さんの息子さんが小さい頃は、ベルハウスの中でコンサートの間本を読んでいた、というエピソードが歴史を物語っている。

「渕上さんご夫妻には感謝あるのみ。毎回私たちが会場入りする頃には、イスを並べ、ティータイムの準備をして、笑顔で迎えて下さいます。続けてこられたのは渕上さんのお蔭です」と倉田さん。仕事という枠を超えた、お互いの信頼関係が300回を支えてきたのではないだろうか。300回記念のワインパーティ付コンサートはこれまでの出演者とファンとが会場にあふれるほど参集した。倉田さん夫妻と渕上さん夫妻の感無量の日であっただろう。

息もぴったりの声楽家夫婦

同業で同じ年齢、しかも一緒に出演する音楽家夫妻の日常は？「仲がいいのはコンサートの時だけ。普通は日常のささいなことでケンカしてますよ」と理子さんは茶目っ気たっぷりに。「女の人は着る服を決めるのに忙しいから、今日も私が食事をつくってきたんですよ」という倉田さんは料理が得意らしい。けれども究極は倉田さんが「ピアニストとのリハーサルの時、その日の体調が分かるので、お互いに助言します。長く声を聴きあって、息を合わせているからできるのでしょう。怪我や病気で1度も休んだことがないのは自慢してよいでしょうか」という通り、素晴らしいパートナー同士だ。

隔年で開催する国分寺のいずみホールでのリサイタルも12回になる。代表を務める東村山音楽愛好協会で、阪神淡路大震災以後続けてきた募金コンサートは昨年までに延べ20回開催。今回の大震災後は久米川幼稚園で実施。今後も被災地の完全復興まで各所で募金コンサートを継続する予定だ。他にも合唱団の指導や音大受験生などの声楽個人指導と多忙な日々を送っている。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

これからのコンサート予定

◆8月23日（火）午後2時
「第12回夢をつなぐコンサート」国分寺市立いずみホール（料）1000円

◆9月24日（土）午後7時30分
「ベルハウス ウィークエンドコンサート」
（料）2500円（飲物付）
（問）Tel・Fax 042(394)6495 倉田